

研究課題名：

びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫 (diffuse large B-cell lymphoma) における EBV の感染パターンに注目した、後方視的な臨床病理学的研究

研究の意義, 目的

Diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL) は本邦ではもっとも多いリンパ腫です。腫瘍細胞に EB ウイルス (EBV) が陽性となる DLBCL は比較的稀ですが大部分は 50 歳以上で発症し、EBV 陰性例より予後不良であることが報告されています。一方、DLBCL の腫瘍細胞そのものではなく、背景の非腫瘍性の B リンパ球にのみ EBV が陽性となる症例も近年報告されていますがこのような症例の予後などの特徴についてはほとんど検討されていません。本研究では、DLBCL において EBV が腫瘍細胞に陽性となる症例と、背景細胞に陽性となる症例を比較検討します。特に後者の特徴を明らかにし、前者の臨床所見、治療成績、予後とを比較検討することで、今後の診断・治療戦略を構築する上での助力になることが期待されます。

研究の方法

平成 4 年 1 月 1 日から平成 28 年 4 月 30 日までに、研究参加機関における病理組織診断にて DLBCL と診断された症例の病理組織切片と臨床情報を集めます。集める切片、情報は診療の一環としてすでに実施されたもののみです。顕微鏡観察により得られる形態的な特徴について、免疫組織化学的な評価を行います。また EB ウイルスの発現についても *in situ hybridization* の手法を用いた確認、fluorescence *in situ hybridization* (FISH) による染色体転座の有無の評価、PCR 法による免疫グロブリン遺伝子の再構成の有無を必要に応じて解析・検討します。これらの形態的な特徴や分子の発現の有無、分子生物学的特徴と、予後などの臨床病理学的な特徴との関連について統計学的に解析、検討します。最終的には 600 症例前後の検討を予定しています。

参加研究機関

藤田保健衛生大学 血液内科、国際医療福祉大学 血液内科、神奈川県立がんセンター 血液内科、聖マリアンナ医科大学 血液・腫瘍内科、富山県立中央病院 内科(血液)

連絡先

本研究に関する連絡先は以下のとおりです。

本研究における診療情報や病理組織切片の利用につきまして、同意できない方、あるいは、疑問等がある方は遠慮無くご連絡・ご質問をお願い致します。

名古屋大学大学院医学系研究科

臓器病態診断学

〒466-8560

愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

Tel: 052-744-2582 Fax: 052-744-2651